

号外



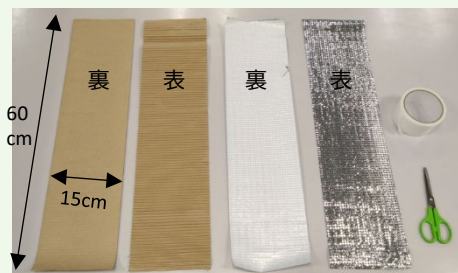
夏の暑さに負けないぞ！



ここ数年、夏はかなり暑くなっています。気象庁の長期予報によると、今夏も平年気温よりも高くなるのが予想されています。日光に当たりすぎたり、気温や鉢の温度上昇によって大事な「菊」が枯れてしまうことも。瀬谷菊友会の講師から、夏の暑さ対策についてアドバイスをいただきました。

リップルボード（巻き段ボール紙）や断熱シートを鉢に巻きましょう

鉢の温度上昇を防ぐため、鉢の周りにリップルボード（巻き段ボール紙）や断熱シートを巻くことをお勧めします。



① タテ15cm×ヨコ60cmのリップルボードと断熱シートを用意します。ネット、ホームセンター、100均等で入手可能。

現在、区役所地域振興課（3階35番窓口）でも配布しています。（数に限りがあります）

② リップルボードを巻きつけ、テープで固定します。タテは鉢の高さに合わせてハサミで裁断します。ヨコは二重に巻く部分があってもかまいません。

③ リップルボードの上に断熱シートを巻きます。これも鉢に合わせて裁断して、テープ留めします。これで完成です。

日常のお手入れに関するアドバイス

(Q) 水やりのタイミングは？

(A) 日中に水やりをすると、菊が吸い上げた水がお湯になって菊を痛めてしまいます。朝ならば6時ころ、夕方ならば日没後にあげましょう。水やりの回数は一日一回で構いません。水をあまりやりすぎると根腐れを起こしてしまうので注意しましょう。

(Q) 葉の剪定は？

(A) 菊の葉が多くなってくると風通しが悪くなりダニが発生しやすくなります。下のほうにある葉は思い切って切断しましょう。また、地面に落ちた朽葉などは素早く取り除きましょう。

(Q) 消毒液は？

(A) 消毒液は日にちが経つと効果が薄れてしまいます。なるべく使用する分だけ作り、全部使い切るようにしましょう。消毒液を薄める場合、説明書きをよく読んで正しい倍率に薄めます。

消毒液の種類により殺菌、殺虫など効果が異なるので、数種類の消毒液を混ぜて使用することも可です。作業時はゴム手袋をつけることをお勧めします。

(Q) 日光に当てる時間は？

(A) 日光に当たりすぎると、菊の葉は黄色に変色してしまい、成長も止まってしまいます。また、鉢を置いた地面が高温になったり、気温も上がりすぎると、菊を痛めます。午前中の数時間日光を当てたら、風通しの良い日かげに移動させましょう。なお、こうした配慮は菊の生育環境に依存します。周囲に他の植物が多くある環境では気温も緩和されます。環境に応じた配慮が必要です。



ハダニが付いた菊

(Q) 消毒液の散布方法は？

(A) 作成した消毒液は霧吹きでまんべんなく菊に散布します。このとき、棒などで葉をめくって、葉の裏側にもまんべんなく散布することが大事です。

なお、固形肥料と同じように表土に撒き、根から吸収して菊の内部から害虫を防ぐタイプの顆粒消毒剤もあります。

次回の「菊の輪サロン」は・・・

8月29日（土）14時から

せやまる・ふれあい館2階
瀬谷区民活動センターで開催します！

後日、開催案内を送付します♪

分からないこと、お気軽にメールでお問い合わせください。

se-kyoudou@city.yokohama.lg.jp

また、第2・4日曜の13時30分～15時頃、長屋門公園で開催している菊友会主催の小菊盆栽講習会でもご質問をお受けします。（雨天中止）

